

南アルプスについて

海底の記憶が刻まれた高峰群

～深い森に抱かれ、今なお隆起し続ける重厚な山岳地～

南アルプス国立公園のモットー

南アルプス国立公園は、日本アルプスの最南端の山々を範囲とします（南は south という意味です）。北の甲斐駒ヶ岳から南の光岳まで約 50 キロメートルにわたって細長くのびている南アルプス国立公園は、南アルプスと総称される甲斐駒・鳳凰山系、白峰山脈、赤石山脈の主要な 3 山域を含みます。この公園は山梨、長野、静岡の 3 県にまたがっています。

南アルプスには、（高さ 3,776 メートルの富士山に対して）3,193 メートルと日本で 2 番目に高い山である北岳だけでなく、高さ 3,000 メートルを超える山が他に 10 峰以上含まれます。この険しい地形は、100 万年前、東と西からの地殻変動によって、山々が海底から急速に押し上げられて形成されました。南アルプスは現在も隆起が続いており、その隆起速度は年間 3～4 ミリで、これは日本の山岳地帯の中で最も速いものです。

これらの山々の葉が密に生い茂る森林の森林限界は、標高 2,700 メートルというこの緯度としては非常に高い位置にあります。これは、公園が比較的南部に位置し、降雨量が豊富で降雪量が比較的少ないためです。地形は、カール（氷河によって削られた、谷の先端にある円形劇場のような空洞）などの氷河地形や、河道の浸食によって生じた急勾配の V 字型の谷が特徴的です。また、この公園には、多くの特徴的な動植物が生息しています。